

問1 十七条の憲法の第一条には「和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗（むね）とせよ」とあり、また第三条には「天皇の命令を受けたならば、必ずつつしんで従いなさい」という趣旨の内容が記されています。このように、この法が道徳的な教えを通じて役人の心得を説いた主な目的は何ですか。（2015年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 有力な豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を整えるため。
2. 仏教を国の宗教として強制し、大きな寺院を建立するための労働力を確保するため。
3. 唐や新羅などの外国からの侵略に備えるため、武士の団結を強めて軍事を高めるため。
4. 土地や人民はすべて国家のものであるという「公地公民」の原則を、民衆に徹底させるため。

問2 7世紀半ば、朝鮮半島では新羅が唐と結んで勢力を広げ、百済を滅ぼしました。これを受けて、当時の日本（倭国）がとった行動とその結果として正しいものはどれですか。（2015年 佐賀公立入試 類似）

1. 百済の再興を支援するために朝鮮半島へ大軍を送ったが、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した。
2. 高句麗の再興を支援するために朝鮮半島へ大軍を送ったが、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した。
3. 唐と結んで朝鮮半島での権益を確保しようとしたが、白村江の戦いで新羅の軍勢に敗北した。
4. 元（モンゴル帝国）の侵攻を阻止するために朝鮮半島へ出兵したが、文永の役で大敗を喫した。

問3 894年に菅原道真の建議によって遣唐使の派遣が停止されましたが、その背景として当時の中国や東アジアの情勢を正しく説明しているものを選びなさい。（2023年 秋田県公立入試 類似）

1. 派遣先の王朝が衰退して国力が弱まり、往復の航海に伴う危険に見合う成果が得られにくくなったため
2. モンゴル帝国の勢力が拡大し、日本に対して服属を求める圧力が強まったため
3. 中国で仏教が弾圧され、日本が求める最新の仏教文化を学ぶことが不可能になったため
4. 平氏による日宋貿易が盛んになり、公的な使節を送らなくても物資が十分に入るようになったため

問4 仏教の伝来によって寺院建築が本格化した際、大規模な木材の需要が発生しました。近畿地方において巨木が枯渇し、森林の伐採規制が行われる要因の一つともなった、世界最古の木造建築を持つ寺院について述べた文として正しいものはどれか。

（2024年 長野県公立入試 類似）

1. 聖徳太子によって建立され、飛鳥時代の文化を現代に伝えている。
2. 聖武天皇の命により、仏教の力で国を守るために全国に建てられた。
3. 最澄が比叡山に開き、平安時代を通じて新しい仏教の拠点となった。
4. 鎌倉時代、北条氏が中国から僧を招いて禅宗を広めるために建立した。

問5 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）が推古天皇の摂政として政治を行っていた時期に定められた「冠位十二階」の制度について、その目的を説明したものと最も適切なものはどれですか。（2019年 長崎県公立入試 類似）

1. 家柄にとらわれず、能力や功績のある人物を役人に登用するため
2. 有力な豪族に対し、代々特定の役職に就く特権を認めるため
3. 戸籍を作成して人々に土地を割り当て、税の徴収を確実にするため
4. 仏教の教えを政治の基本とし、国全体の道徳を高めるため

問6 6世紀末、日本初の女性天皇である推古天皇が即位した際、天皇を助けて政治を行う「摂政」という役職に就き、有力豪族と協力して天皇中心の国づくりを進めた人物は誰ですか。（2021年 愛媛県公立入試 類似）

1. 聖徳太子
2. 中大兄皇子
3. 中臣鎌足
4. 足利義満

問7 飛鳥時代から奈良時代へと至る時期に起きた次の4つの出来事について、時期の古いものから順に正しく並んでいるものはどれか。（2022年 千葉県公立入試 類似）

1. 聖徳太子による法隆寺の建立 → 中大兄皇子らによる蘇我氏の打倒 → 白村江の戦いで敗北 → 壬申の乱
2. 中大兄皇子らによる蘇我氏の打倒 → 聖徳太子による法隆寺の建立 → 壬申の乱 → 白村江の戦いで敗北
3. 聖徳太子による法隆寺の建立 → 白村江の戦いで敗北 → 壬申の乱 → 中大兄皇子らによる蘇我氏の打倒
4. 白村江の戦いで敗北 → 壬申の乱 → 聖徳太子による法隆寺の建立 → 聖武天皇による国分寺建立の詔

問8 聖徳太子の摂政就任から平安京遷都に至る日本の古代政治史において、645年の大化の改新よりも後に起きたできごととはどれか。次の中から選びなさい。（2019年 香川県公立入試 類似）

1. 大宝律令の制定
2. 十七条の憲法の制定
3. 冠位十二階の制定
4. 最初の遣唐使の派遣

答え合わせ・解説

問1	答え 1 有力な豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を整えるため。	当時の日本は、有力な豪族がそれぞれ勢力を持ち、互いに争うことも少なくありませんでした。聖徳太子は、国家を一つの組織としてまとめるために、役人が守るべき道徳規範を示す必要があると考えました。豪族たちが「和」を重んじて対立を避け、最高権威である天皇に従うという秩序を作ることで、天皇を頂点とする組織的な統治（中央集権化）を推し進めようとしたのがこの法の背景です。
問2	答え 1 百済の再興を支援するために朝鮮半島へ大軍を送ったが、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した。	当時の朝鮮半島では、唐と新羅が連合して百済や高句麗を圧迫していました。660年に百済が滅亡すると、日本は古くから交流のあった百済の再興を助けるために朝鮮半島へ出兵しました。しかし、663年に錦江の河口付近（白村江）で行われた戦いにおいて、唐・新羅の連合軍に圧倒的な軍事力の差で敗れました。これにより、日本は朝鮮半島における拠点完全に失うこととなりました。
問3	答え 1 派遣先の王朝が衰退して国力が弱まり、往復の航海に伴う危険に見合う成果が得られにくくなったため	9世紀後半の唐では、国内で反乱が相次ぐなど政治的な混乱が続いて衰退しており、日本が学ぶべき魅力が薄れていました。また、東シナ海を渡る航海は非常に命がけであったため、菅原道真は費用やリスクに対して得られるメリットが少ないと判断し、派遣の中止を提案しました。これがきっかけとなり、日本の独自の風土に合わせた国風文化が発展することになります。
問4	答え 1 聖徳太子によって建立され、飛鳥時代の文化を現代に伝えている。	飛鳥時代に建立された法隆寺は、現存する世界最古の木造建築物です。仏教伝来によりそれまでの縦穴住居などは異なる巨大な木造建築（寺院）が造られるようになり、建築用木材として多くの巨木が切り出されました。その結果、周辺地域での森林資源の枯渇を招き、後の時代における資源管理の重要性が認識されるきっかけにもなりました。
問5	答え 1 家柄にとらわれず、能力や功績のある人物を役人に登用するため	それまでの日本の政治では、特定の氏族が代々決まった役職を引き継ぐ「氏姓制度」が中心でしたが、聖徳太子は個人の実力を重視するこの制度を導入しました。これにより、天皇に従順で有能な人材を役人として集め、天皇中心の国づくりを進める狙いがありました。選択肢にある土地の割り当ては、後の「班田収授法」の内容です。
問6	答え 1 聖徳太子	飛鳥時代、推古天皇の摂政となった聖徳太子は、有力豪族である蘇我馬子と協力して政治を行いました。この時期には、家柄ではなく能力で役人を登用する官位十二階や、役人の心得を示した十七条の憲法が制定され、中央集権国家の基礎が築かれました。中大兄皇子や中臣鎌足は、後の時代に蘇我氏を倒して大化の改新を進めた人物です。
問7	答え 1 聖徳太子による法隆寺の建立 → 中大兄皇子らによる蘇我氏の打倒 → 白村江の戦いで敗北 → 壬申の乱	まず7世紀初頭、聖徳太子によって法隆寺が建立されました。その後、645年に中大兄皇子らが蘇我氏を倒して大化の改新が始まり、663年に朝鮮半島での白村江の戦いに敗れました。天智天皇（中大兄皇子）の死後、672年に皇位継承をめぐる起きた内乱が壬申の乱です。聖武天皇による国分寺建立の詔は、さらに後の奈良時代の出来事です。当時の日本が対外的な敗戦や内部の争いを経て、天皇中心の律令国家を形成していった流れを理解することが重要です。
問8	答え 1 大宝律令の制定	大化の改新（645年）によって始まった天皇中心の国づくりは、その後の律令制度の整備へと繋がります。大宝律令が制定されたのは701年であり、聖徳太子による改革（十七条の憲法、冠位十二階、遣隋使の派遣など）は大化の改新より以前のできごとです。